

## 2024年度（令和6年度）事業計画書（案）

障害者支援施設 木埋学園

### 1 施設を取り巻く現状と課題

#### (1) 事業の種類及び利用定員

- ① 生活介護事業 30名
- ② 施設入所事業 30名
- ③ 短期入所事業 2名

#### (2) 県市町村等からの受託、補助事業等

- ① 生活困窮者就労訓練事業 1名

#### (3) 地域における公益的な取組

- ① 町内の清掃活動（イオン清掃・町内一斉清掃）
- ② ペットボトルキャップ回収（キャップリサイクル及び、ワクチン代への寄付）
- ③ 障がい者の学び支援事業 「ゆふボきらきら教室」の参加

#### (4) 運営方針

利用者様の人権の尊重を基本とし、利用者様が安心・安全で健康に生活できるよう、利用者様個々に応じた質の高いサービス提供に努めます。

近年、学園では身体的機能の低下・重度化が進み、日常生活に係る身体介護や健康管理・通院引率等の多様な支援が必要になっております。利用者様一人ひとりの心身状態を把握し、状態の変化を見逃さないよう、職員個々が強い責任感を持ち、専門的な知識取得や支援のスキルの向上に努めます。また、関係機関や他事業所との連携・協働し、地域の障害者等のニーズの把握に努め、多様な福祉サービスの機会が得られるよう、地域福祉の向上に努めます。

職員の経営に関する意識の醸成が重要であることから、施設の収支状況を把握し、コスト削減や見直しを適切な経費の節減に取り組み、経営意識の醸成に努めます。

## 2 施設の実施策と取組の方向性

### (1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	・施設内の情報の発信
現状と課題	・施設内での生活の様子や行事参加など伝えられる機会が少ない。
取組の方向性	・SNSでの発信（同意了承のみのご家庭） ・学園だよりでの発信（同意了承・却下の双方のご家庭へ）

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	育成体制の構築
現状と課題	・指導を行う中で、振り返りを行う時間（面談）がうまく取れていない。
取組の方向性	・新人職員が質問しやすく、話しやすい環境づくりを施設全体でどうフォローしていくべきか考え取り組んでいく。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	連携の強化
現状と課題	支援方法の統一化が不十分で、情報共有がうまく出来ていない。
取組の方向性	・新館・旧館と職員が離れて支援をしているため、互いに助け合い、業務内容を共有していく。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	業務改善（課題の見える化）
現状と課題	・前年度、勤務時間の見直しを行い、残業は少なからず改善されているが、今後も継続していきたい。
取組の方向性	・2週間に1回のカエル会議を実施。タイムテーブルの見直し。

### (2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	第三者評価
------	-------

現状と課題	・これまで評価を受けていないため、施設の実態を知り、改善に努めたい。
取組の方向性	令和6年度に第三者評価を受け、事業所の改善・サービスの向上に繋げたい。

実施施策	日中活動の充実
現状と課題	・重度化が進み、個別対応のご利用者が増えている。 ・活動ができるご利用者と困難なご利用者との差がある。
取組の方向性	・個別支援の強化 ・個々の特性に応じた活動の工夫

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	安全性
現状と課題	・リスクマネジメントに関するマニュアルの周知が職員に十分行えていない。
取組の方向性	・会議などでマニュアルの確認・振り返りを随時行う。 職員が見やすい場所へ掲示する。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域貢献
現状と課題	定期的に行っている活動には参加しているが、新しい取り組みにまで至っていない。
取組の方向性	・キャップ回収・イオン清掃活動の継続。 ・由布市が主催するゆふボきらきら教室への定期的な参加。 ・施設見学依頼の積極的な受け入れ

### (3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	短期入所の受け入れ
現状と課題	・高等部卒業後の進路先を短期入所を利用しつつ、施設入所を望まれているご家族が増えている。
取組の方向性	・相談支援事業所・市町村との連携を継続しながら、短期入所率を上げていく。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	新築移転に向け、経費の抑制
現状と課題	・経費削減への意識の低さが感じられる。
取組の方向性	・緊急性や危険性がある場合における備品購入・修繕以外については、現場で本当に必要な経費なのか確認しながら抑制していく。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	報連相の徹底
現状と課題	児者併設の為、あらゆる情報が飛び交う中で報連相の徹底が疎かになっている。
取組の方向性	・組織の流れの見直し。 ・連絡を受けたら必ず上司・現場職員に報告するという流れを徹底させる。

### 3 目標利用率

事業名	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均/月
生活介護事業	30	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	23.1
施設入所事業	30	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	25	24.1
短期入所事業	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

### 4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名 称	執 行 見 込 額
公用車 1 台	3,344,500 円 ※2,590,000 円は日本財団福祉車両助成金申請予定
食器乾燥機	100,000 円

### 5 修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位：千円)

名 称	執 行 見 込 額
トイレ修繕	100,000 円
ドア修理	100,000 円
旧館個室周辺修理	400,000 円
旧館風呂場修理	200,000 円
壁紙張り替え	100,000 円

支援ホール風呂場修理	150,000 円
カーポート張替	100,000 円

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名 称	執 行 見 込 額
なし	